

ふたばの桂

京都府大広報 No.174 | 2014.10

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY



特集1 教養教育共同化施設「稻盛記念会館」竣工

特集2 京都府立大学和食文化研究センターを開設!!

CONTENTS

地域連携 —— 5 公開講座・生涯学習 —— 6

各学部・研究科の取り組み 文学部 —— 7 公共政策学部 —— 7 生命環境科学研究所 —— 8
国際交流 —— 9 受賞情報 —— 10 話題の研究・実験 —— 11 ニューフェース —— 11
退職教員からのメッセージ —— 11 イベント情報 —— 12

特集1

教養教育共同化施設「稻盛記念会館」竣工

新たな文化・学術・環境を発信する京都府の「北山文化環境ゾーン」整備のメイン施設の一つとして、平成24年10月に建設着工された教養教育共同化施設「稻盛記念会館」が、このたび竣工を迎えました。この「稻盛記念会館」は、京都府立大学、京都府立医科大学、京都工芸繊維大学の三大学が、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性を持つ人材の育成を目的に、全国初の取組として本年4月からスタートさせた教養教育共同化を展開する拠点施設として、その完成が待ち望まれていたものです。

今後、この施設で三大学の学生が一堂に会して学び、教職員や府民の皆さまとの多様な交流が進む中で、下鴨・北山地域における新しい学生のライフスタイル、大学像が構築されていくことが期待されます。



上空から見た「稻盛記念会館」と京都府立大学下鴨キャンパス

なお、この施設の建設につきましては、その趣旨に御賛同いただきました京セラ株式会社名誉会長稻盛和夫様から、京セラ株式会社の創業の地である京都府に対して多額の御寄附をいただきました。

●施設の概要

北山地域にとけこむ施設、京都議定書の街にふさわしい施設、持続可能な骨格を備えた施設を設計コンセプトに、環境に配慮したシステムを持つ施設として整備されました。

三大学学生の学修空間として、豊富な教養教育が提供できる講義施設が整備されています。マスプロ教育を避けるため200人規模を最大に17教室が整備されているほか、視聴覚室、コンピューター室、研究ゼミ室も整備されています。また、自学自修の環境を充実させるため、自習室を2室設けています。ゆとりある廊下、ガラス窓活用による植物園の緑や自然採光の取り込みなど、快適な学びの空間を創出するための工夫も施されています。



2階自習室の様子

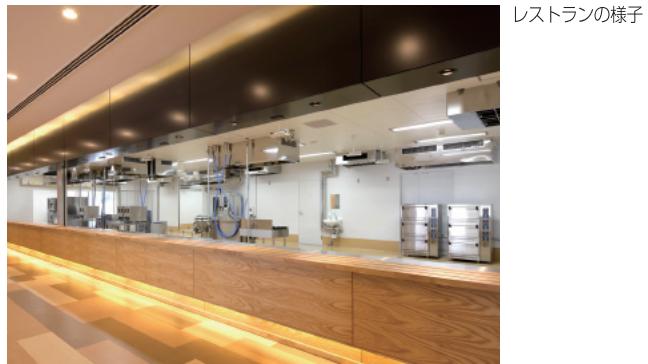


視聴覚室の様子



講義室の様子

また、府民の皆さまとの交流の場として、三大学の学生、教職員のほか、どなたでも気軽にご利用頂けるレストランも整備されています。



レストランの様子



外観東面夜景

■建物の概要

①構造・規模

鉄筋コンクリート造 陸屋根 地下1階 地上3階建て
延床面積 9,088.73m²

②環境配慮

太陽光パネル設置、エコボイド(吹き抜け空間を各階の自然換気、自然採光に利用)、雨水、井水を雑用水に利用し、水道使用量を大幅に削減

③建物ゾーニング

◆1階 府民利用・学生交流フロア
講義室6室(200人:1室、170人:2室、100人:3室)、稻盛記念展示室、レストラン、自習室、事務室

◆2階 学生講義室フロア
講義室11室(120人:3室、100人:3室、60人:4室、30人:1室)、視聴覚室、自習室、会議室

◆3階 研究等フロア
京都府立医科大学(研究室、化学実習室、生物学実習室、物理学実習室、実験準備室、コンピューター室)、研究ゼミ室

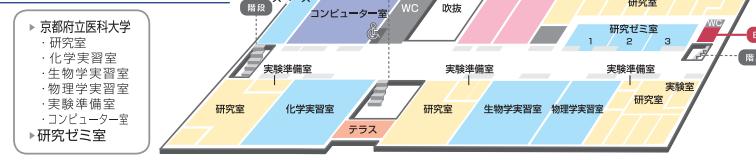
1階 府民利用・学生交流フロア



2階 学生講義室フロア



3階 研究等フロア



教養教育共同化施設新築工事 竣工式実施

平成26年9月29日(月)、教養教育共同化施設「稻盛記念会館」新築工事の完成に伴い、竣工式が実施されました。

3大学交響楽団による演奏が行われる中、知事、公立大学法人理事長、京都府議会議長、稻盛和夫氏のご出席を得て、三大学の学長とともに、定礎式、テープカットで華々しく幕を開けました。

竣工式では、ご来賓の方々より今後の稻盛記念会館を活用した教養教育共同化への期待や激励の言葉をいただきました。

続いて行われた施設案内にも多くの方に参加いただき、新しい時代への一歩となる記念すべき一日となりました。



テープカットの様子

「『稻盛記念会館』を 豊かな人間性涵養の場に」

京セラ株式会社 名誉会長 稲盛 和夫（敬称略）

1955年に京都で初めて就職し、京セラを創業して現在に至るまで、約60年の間、私は京都の地の恩恵に浴してまいりました。私を育ててくれた京都に、何か恩返しがしたいと考えおりましたところ、京都にある三大学の教養教育共同化計画について伺い、その趣旨に賛同して、私財の提供を申し出ることにいたしました。

多様な価値観を持つ若き学生達にとって、相互に交流し、人格を陶冶することが、極めて重要であると私は考えております。その観点から、専門分野の垣根を越えて、三大学の強みと特徴を生かした多彩な教養教育が行われる「稻盛記念会館」は、若き学生にとってかけがえのない教育の場になるものと信じております。

京都府立大学をはじめとする、伝統ある京都の三大学にとって、「稻盛記念会館」が将来を嘱望される若者たちの人間性を涵養する場となりますことを、心より期待しております。



特集2

京都府立大学和食文化研究センターを開設!!

～日本初の和食文化の高等教育機関設置を目指して～

昨年12月に、我が国の食文化が、自然を尊重する日本人の心を表現したものであり、伝統的な社会慣習として世代を越えて受け継がれていると高く評価され、ユネスコの無形文化遺産「和食、日本人の伝統的な食文化」として登録されました。

食に関する無形文化遺産としては、「フランスの美食術」、「スペイン・イタリア・ギリシャ・モロッコ4カ国の中海料理」、「メキシコの伝統料理」、「トルコのケシケキ(麦がゆ)料理」について、5件目の登録になります。

今回、「和食」が無形文化遺産に登録されたことから、諸外国で日本の食文化への関心が高まるとともに、観光客の増加や文化の相互交流・多様化につながると期待されます。しかし、一方では、生活の洋風化や調理技術の簡便化が進み、旬の素材を活かすことへの関心の薄れ、若者の和食離れなどが進み、和食を文化としていかに継承・発展させていくかが課題となっています。

和食のルーツは、有職料理、精進料理、茶懐石料理の3つにあると言われ、いずれも京都が発祥の地と言われています。和食の文化を継承・発展していくためには、その結び目・つなぎ役が必要であり、ここ京都の地の役割、責任は大きなものがあります。

そこで、和食の文化を継承・発展し、その担い手となる人材を育成するとともに、世界に発信していくため、本学に和

食文化の高等教育機関設置を目指し、その第一歩として、本年10月1日、京都府立大学和食文化研究センターを開設することとなりました。

本学では、このセンターを中心に、京都の食や文化関係の大学や研究機関、茶道、華道等の伝統文化や経済団体、料理飲食関係の企業や団体等と連携したオール京都の体制のもと、和食文化を継承・発展させていく人材育成に努めています。

また、大学における教育・研究の成果を府民等に還元し、和食文化を広く世界に向けて発信していく取り組みを行って行くこととしています。

本年度、その具体的な取り組みとして、和食文化に関するリカレント学習講座を、11月29日の第1回を皮切りに5回シリーズで開催することとしています。この講座はどなたでも参加できますので、ご希望の方は、下記の連絡先までお問い合わせください。

また、来年度以降、歴史や文化だけでなく調理学やしつらえ、フードビジネスなど食に関する幅広い科目を有するプログラムの開講を計画しています。

将来は、このセンターを基盤に和食文化に関する高等教育機関として学部・学科等の設置も視野に取り組みを進めています。

参加募集! 京都「和食の文化と科学」リカレント学習講座 開催

ユネスコ無形文化遺産登録を記念して、「和食」をより深く学ぶための連続講座です。一流の講師陣から和食の文化と科学、京料理・京野菜、和菓子について学びます。



食保健学科3回生栄養教育論実習より”秋の味覚弁当”

■第1回 平成26年11月29日(土)
「和食文化と京都」
静岡文化芸術大学学長 熊倉 功夫 氏

■第2回 12月13日(土)
「和食とWashoku」
日本料理アカデミー理事長 村田 吉弘 氏
茶道資料館副館長 筒井 紘一 氏

■第3回 平成27年1月10日(土)
「和菓子の魅力」
(株)虎屋 虎屋文庫 中山 圭子 氏
京都府立大学 松井 元子 准教授

■第4回 2月21日(土)
「京料理と京野菜の魅力」
大和学園京都調理師専門学校校長
仲田 雅博 氏
京都府立大学 中村 考志 教授

■第5回 3月14日(土)
「次世代につなぐ和食」
近畿農政局消費・安全部長 石場 裕 氏
京都府立大学 大谷 貴美子 教授

講義時間 いずれも午後1時30分～3時30分

定 員 100名(申し込み多数の場合は抽選)

参 加 費 全5回 5千円(学生・留学生は無料)

申込方法 はがき・FAX・E-mailで、住所・氏名(フリガナ)・連絡先(電話、FAX、E-mailアドレス)をご記入のうえ、下記申込先までお申し込みください。
(学生・留学生の方は学校名を記入してください)

申込締切 平成26年10月31日(金)

申込・お問い合わせ先

〒606-8522 (住所記入不要)
京都府立大学事務局企画課
TEL: 075-703-5147
FAX: 075-703-5149
E-mail: kikaku@kpu.ac.jp

トピックス

地域連携

京都市産業技術研究所と連携・協力に関する包括協定を締結

地方独立行政法人京都市産業技術研究所との連携・協力の取り組みを今後一層推進するため、平成26年10月28日に連携・協力に関する包括協定を締結します。

京都市産業技術研究所は、染織技術や繊維材料をはじめ、高分子、金属、窯業、表面処理、バイオ、デザインにわたる8つの研究チームがそれぞれ有している得意技術や専門的知見、さらには高度な研究開発機器を活用して、幅広い分野の研究、企業に対する技術支援を行っ

ており、京都の中小企業をはじめとする事業者の経済活動を技術面からサポートする産業支援機関です。本年4月には、研究所外の大学、公的機関、産業界との連携体制を強化するための組織再編も伴って「地方独立行政法人」へ移行しています。

京都市産業技術研究所と本学は、これまでから、バイオテクノロジー分野を中心とした共同研究、京都市産業技術研究所研究員の本学大学院講義への講師派遣、そして京都府、京都市、京都大学、京都商工会議所の共同申請により、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の地域産学官共同研究拠点整備事業に採択され、JSTから貸与を受けた高度研究機器を活用した「京都バイオ計測センター」の運営等について、密接に協力・連携してきました。加えて、昨年12月には、生命環境科学研究所及び本学地域連携センターと合同で「連携から生まれる商品化とイノベーション—先端研究を"日常"へ—」というタイトルのシンポジウムを開催し、市民の方へのアピールを積極的に行ってきました。今回の包括協定の締結を機に、これまでの連携をさらに深めて学の研究成果を産業へつなげ、京都のものづくり企業の活性化を図るとともに、それぞれの得意領域を踏まえた共同研究や、産学公が連携した研究開発等の取組を更に発展させ、地域社会の活性化や産



京都市産業技術研究所（京都リサーチパーク内）



産技研迅速分析評価室

業の振興、さらにはお互いの持つ人的資源をより有効活用する人材育成にも貢献していきたいと考えています。

包括協定では、今後、次の事項について連携・協力を進めいくこととしています。

- ①共同研究に関すること
- ②研究成果等の普及に関すること
- ③人材育成に関すること
- ④産学公の交流及び連携に関すること

連携・協力包括協定の締結にあたり、京都市産業技術研究所理事長の西本清一さんからメッセージをいただきましたので、御紹介します。

産学公連携による 京都地域の産業活性化に向けて

地方独立行政法人
京都市産業技術研究所

理事長 西本 清一（敬称略）



山背の地に本格的な都市が形成されてから1200年余り、京都の人々はいつの時代も異文化・異文明を積極的に受容する一方、それらの多様性を保持しつつ重層構造を形成し、やがて文化・文明の新たな成熟を見いだしてきました。このような京都のエースは「ものづくり」文化を培養し、その精華として伝統産業から先進産業まで多様な産業が京都域内に息づいています。

京都府立大学と京都市産業技術研究所は、これまでバイオテクノロジー分野を中心とした研究や大学院教育に共同で取り組んできました。その実績を踏まえて一層緊密な連携活動を展開するために、このたび包括協定を締結するに至りました。

包括協定の締結を契機に、学問の府として産業基盤を成すシーズ技術を創出する京都府立大学、地域産業支援機関として大学のシーズ技術を産業界に橋渡しする京都市産業技術研究所、「ものづくり」の伝統を保持した中小企業を始めとする地域の産業界が一体となり、産学公連携体制による新産業の育成と発展に繋げる一助になることを期待しています。

公開講座・生涯学習

京都府立大学文学部公開シンポジウム

「日本人の英語はどう聞こえるか—世界諸英語の時代のジャパニーズ・イングリッシュ」

文学部 欧米言語文化学科 山口美知代 准教授

8月2日、京都府立大学大学会館2階多目的ホールで、「日本人の英語はどう聞えるか?—世界諸英語の時代のジャパニーズ・イングリッシュ」というシンポジウムを開催しました。13時半に開会となり、渡邊伸文学部長のあいさつ、本学部文学部野口祐子教授による趣旨説明がありました。

まず、イギリスのノーサンブリア大学上級講師、ロバート・マッケンジー博士が「日本人の英語はイギリスの大学生にどう聞えるか—北部イギリス英語、アジア留学生の英語の例とともに」という講演を行いました。イギリスの大学生にとっては、アジア留学生の英語や日本人の英語はなじみが薄いため、ステータスが低いという評価をされる傾向があるというお話をしました。

次に法政大学グローバル教養学部の渡辺宥泰教授が「日本語なまりの英語を聞き分ける—ニュージーランドでの調査」という講演を行いました。RとLの区別が苦手なのは日本人だけでなく、中国人、韓国人の英語にも見られる特徴なのですが、ニュージーランドのこれを日本

人英語の特徴と結びつける傾向が大きく、中国人や韓国人の英語も日本人の英語だと認識しがちだと報告されました。なおニュージーランドでは日本人観光客が多く、学校で日本語が学ばれることも多いので地元のひとの日本人英語への印象は肯定的だそうです。

休憩をはさんだのち、私が「映画のなかのジャパニーズ・イングリッシュ」について『ラスト・サムライ』などを取り上げて話し、最後に会場のみなさんからの質問にたいする応答を中心に「世界諸英語の時代のジャパニーズ・イングリッシュ」というテーマのパネルディスカッションを行いました。

このシンポジウムは科学研究費基盤研究(c)「世界諸英語に関する理解を深めるための映画英語教育」の成果公表の一環として行いました。当日は、足元が悪い中、100名を超す方にお越しいただき、まことにありがとうございました。



シンポジウムの様子

高校生のための 演習林野外セミナー

7月21日開催 本学・大野演習林（南丹市美山町）

夏休みを迎えた高校生らを対象に、大学の森の教育・研究活動の紹介と生物の多様性や森の仕組みなどについてわかりやすく解説する演習林野外セミナーを開催しました。

大学の演習林の中で最も広大な大野演習林は、由良川の上流にあり特別天然記念物オオサンショウウオも生育する自然豊かな森に囲まれています。受講生は京都だけでなく近畿、岡山、静岡からの21名で、7名の森林科学科教員が講師役を務めました。はじめは、渓流に入つて生き物の生態や渓流沿いの樹木の話を聞きながら川を遡る渓流歩きを楽しみました。大野学舎で昼食後は、まず、100年生を超えるスギ林の観察です。台風被害で倒れた巨木を片付けずに、そのままの姿で自然の遷移を調べる区域の話、風雪に耐えて生き残ったスギの巨木林を後生に残す話を聞きました。そして、林道沿いを歩きます。樹木の葉っぱや実を取って、観察して、講師の話を聞いて樹木を知る、大学の実習そのものでした。講師の分かり易い話で納得したのか受講生はアカデミック

な雰囲気を味わいました。最後には、森の恵みである木材を加工する施設の紹介を受け薪割りを楽しみました。

このように、渓流や森を歩いて観察すること、木材を加工する技を知ることなど森林の中で体感することの素晴らしさを発見した一日でした。

この秋、11月8日には左京区にある久多演習林で野外セミナー(一般向け)を開催します。多くの御参加をお待ちしています。

(生命環境学部附属演習林)



渓流を歩く
気持ちいい

まっ直ぐに育つ
スギ林を観察



各学部・研究科の取り組み

文学部

「国際京都学」へのアプローチ —古典籍の活用を通して—

日本・中国文学科 藤原 英城 教授

平成 21～23 年度にわたり、京都府公立大学法人地域関連課題等研究支援費により、研究代表者として日本・中国文学科全教員の協力の下に京都府立総合資料館所蔵の古典籍の調査・研究を行ってきましたが、平成 24 年度 ACTR 「学際的・国際的視点にたつ京都学構築のための方法的探究」(研究代表者：櫛木謙周教授)においては、多様な角度からの「京都学」への課題が検討され、筆者も府立総合資料館所蔵資料（古典籍）の活用という視点から研究報告をしました（「資料館所蔵古典籍の活用—『京童』をめぐって—」）。

昨年度はこうした貴重な取り組みを活かし、文学部 3 学科の教員参加の下で ACTR 「現代版『京童』へのアプローチ「国際京都学」研究における京都府立総合資料館所蔵古典籍活用の可能性—」を行い、出版された最初の京都名所案内記『京童』(中川喜雲著 明暦 4 <1658> 年刊)の内容を国内のみならず、海外の人々にも知っていただけます。

ことを主眼とし、江戸時代に著された古典としての『京童』の文章に注釈や現代語訳を施すとともに、英語訳・中国語訳も試み、さらに歴史学からの考察やフィールドワークを通じての現代との比較調査なども実施しました（研究成果は以下のアドレスからも御覧いただけます）

http://www2.kpu.ac.jp/letters/hist_studies/kyouwarabe/）。

平成 26 年 3 月 15 日には ACTR の研究成果を基に文学部主催の国際京都学シンポジウム「名所の今昔 おもしろ案内 —現代版『京童』へのアプローチ—」を開催しました。シンポジウムのチラシには AR (拡張現実) の技術を取り入れ、京都新聞にもカラー写真入りの記事で大きく紹介されました（3 月 12 日・朝刊）。

こうした「国際京都学」へのアプローチは、文学部 3 学科がそれぞれの特色を活かしながら協力することで、前例のないユニークな研究成果をもたらしています。



公共政策学部

ディスカバリー研究 一公正な裁判をめざして—

公共政策学科 竹部 晴美 准教授

例えば、「薬を服用していて重篤な副作用が出た。他にも同じ副作用が出た人が大勢いるらしい。」こんな場合、被害者はどうすればよいでしょうか？多くの場合は、裁判所で薬品会社などを相手取って訴訟を起こすことになります。そのような「私人」(被害者)対「私人」(上の例の場合薬品会社)の訴訟のことを民事訴訟と呼んでいます。

民事訴訟を提起すると、両当事者はそれぞれ集めた証拠に基づいて主張をしていくわけですが、その証拠収集について日本では多くの問題点があります。たとえば、「薬品の認可基準や諸外国での認可状況が知りたい。」「今まで同様の副作用がなかったか知りたい。」と被害者が思っても、その証拠入手するには相手方当事者である会社の情報提供が不可欠ですが、日本ではそのような証拠を実際に入手する法的手段がありません。会社側が証拠を隠した(提出しなかった)としても制裁規定も用意されていないのです。

この点、アメリカではどうなっているかというと、ディ

スカバリー手続きという制度によって、問題を解消しています。私はこのアメリカ民事訴訟手続きにおけるディスカバリー制度について研究しています。ディスカバリーとは証拠開示手続きのことであり、当該訴訟に関する情報は全開示が原則とされています。ですからディスカバリー手続きによって証拠の偏在を防ぎ、訴訟当事者に訴訟過程における公正さ (fairness) の実現を認識させるだけでなく、裁判結果に対する満足感を与えることが可能になると考えられています。ですがディスカバリーにも、費用や時間がかかるため、その濫用につながりやすいという批判も存在します。

ディスカバリーは実務上の手続きですから、適応範囲がどんどん拡大し、常に変容するので継続的な研究が不可欠です。また日本の証拠収集手続きの問題点を明らかにし、改善提案をするのも研究の重要な点です。当事者の利用しやすい証拠収集手続きをめざし、研究を続けていきたいと思います。



ニューヨークにて恩師と

生命環境科学研究科

「地図」で森林を見る化 —持続可能な森林管理に向けた実用的研究—

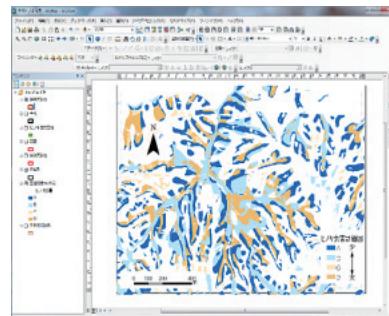
環境科学専攻 森林計画学研究室 長島 啓子 助教

日本の森林が今、荒廃しています。主な原因は、林業の低迷などを受けて人々が森林の管理を十分に行わなくなつたためです。森林が荒廃すると、森林の持つ水土保全機能、生物多様性保全機能などの機能が低下すると危惧されています。しかし、今の森林すべてを一度に管理するのは難しいことです。そこで、本研究室では、今の森林の現状を調査し、地理情報システム(GIS)を用いて解析することで、「地図」として森林の現状や問題を可視化(=見える化)して、今後の管理方針を提案する実用的な研究を行っています。

例えば、三重県大台町で行っている研究が挙げられます。三重県大台町は急峻な地形に多くの人工林を抱く町です。しかし、全国同様、林業不振により人工林は十分管理が行われていない状況でした。また、スギノアカネトラカミキリという虫によって幹に孔や変色が生じ、材価が低くなるという問題も抱えていました。このため、今後持続的に森林を管理するには、スギ、ヒノキが育ち、虫による被害の少ない場所(以下、林業適地)で林業を継

続し、そうではない場所は、広葉樹林などへ転換することが必要であると考えられました。そこで、林業適地を把握するために、GISによって地質図、斜面形状区分図、傾斜区分図、表層土粒径区分図、堆積様式区分図を重ね合わせ、立地環境を把握するとともに、各立地環境における成長や虫害の傾向を把握しました。これらの解析から成長評価図や虫害評価図を得、林業適地を地図上で把握できるようになりました。この研究成果は、実際に森林管理計画を立てる上での基礎資料として利用されております。

このように、当研究室では、地域が直面する森林管理に関わる問題の解決に向け、産(企業など)・官(行政)・民(地域住民)と連携し、研究をおこなっています。現在そして将来の世代が豊かな森林とその恩恵を享受できるよう、今後も研究を通して持続的森林管理に貢献していきたいと考えています。



GISで得られた虫害評価図の例

昆虫は何故こうも多様になったのか？

応用生命科学専攻 応用昆虫学研究室 大島 一正 助教

昆虫。この生き物を見た事が無いという方はおられないはずである。それもそのはず、現在、180万種程度の生物種に名前が付けられているが、その半数以上はなんと昆虫である。

では、昆虫はなぜこうも多様になったのだろうか？多様になるためには、新たな種類が分化する必要があり、種類が異なるということは「交配しても子孫ができるない」といった何らかの生殖的な障壁があることを意味する。しかし、もともとは同じ種類だったわけである。

一つの例を想像していただきたい。ある昆虫種Aのオスは、交配時にダンスをメスに見せるとする。そして、A種に一番近縁な昆虫種Bでは、ちょっと違ったダンスが見られる。A種のメスはA種の、B種のメスはB種のダンスしかそれぞれ受け入れないとする。では、A種の中に突然変異でB種タイプのダンスをするオスが初めて現れたとき、このオスはどのメスと交配したのだろう？

この謎を解き明かすには、ダンスというオスの行動を司る遺伝子と、ダンスに対するメスの好みを決めている遺伝子を見つけて、それらがどのように進化してきたの

かを調べるしか無い。交配ダンスに限らず、昆虫の世界は不思議な形質であふれている。例えば写真の「ムラサキシャチホコ」という蛾では、翅の模様が「落葉して縁が丸まつた枯れ葉」にそっくりである。立体的に見えるが、もちろん翅なので平面である。

交配ダンスにしろ、翅の模様にしろ、これまで不思議だなあと思うしかなかったが、今、昆虫学には一大転機が訪れている。それはゲノム解析技術の飛躍的な向上と、ゲノム編集と呼ばれる技術の驚異的な汎用化である。ゲノム解読により生き物の設計図が容易に手に入るようなり、ゲノム編集により怪しいなと思う遺伝子の機能を止めたりできるようになってきたのだ。昆虫の不思議に正面から向き合える時代が到来したと言える。



ムラサキシャチホコ

国際交流

韓国京畿開発研究院との研究交流について

公共政策学部公共政策学科 川瀬 光義 教授

本学部が研究交流協定を締結している京畿開発研究院は、韓国で最も多くの人口を有する広域自治体である京畿道、および道内の自治体などが共同で設立した政策研究機関です。京畿道の行政区域は、ソウル市を取り囲むように形成されています。ソウル市の大都市化の影響をうけて人口増加が顕著な地域、それとは対照的に過疎化がすすんでいる地域、軍事境界線近くに設けられていた米軍基地の大規模な返還が予定されている地域などがあり、様々な課題が山積しています。院内には、自治体・議会政治、都市・住宅、創造経済、交通、環境などの研究部門が設けられており、京畿道内自治体が対応しなければならない課題の政策立案に重要な役割を果たしています。

筆者が地方分権をめざす財政改革の日韓比較研究をすすめてきたこと、また2008年度から10年度まで日本地方財政学会の国際交流担当常任理事を担当したことなどを契機に、同研究院所属の研究者との交流をすすめてきました。

その一環として2012年7月に、院長をはじめとする5名の研究員が本学を訪問され、研究会を開催しました。その際に先方より本学部との協定締結を希望する旨の提案があり、2013年3月21日に協定締結に至りました。

これまで下記のようなテーマで研究交流会を開催してきました。

「自治体の責任性を確立するための行財政実態比較」(2012年7月12日、於：本学) 「少子高齢化と公共部門の効率性」(2013年3月21日、於：京畿開発研究院) 「自治体財政危機時代の現状と対応」(2013年12月3日、於：本学)

これまででは、研究成果を持ち寄って質疑応答する形式での交流でした。2015年3月の更新の際には、互いの実情を調査した成果を交流する方向に深化させたいと考えています。



交流協定締結の
際の記念撮影

国際交流ニュースレターの創刊によせて

本学は、2012年と2013年に開催された国際化に関する全学的な会議を受け、第2期中期計画において国際センター（仮称）の設置を目指しています。国際交流を身近に感じてもらうため、国際交流ニュースレターを新たに発行することとなりました。研究と教育の国際交流を柱に、情報を発信していきたいと思っています。（国際交流委員会）

4年目のレーゲンスブルク研修雑感

文学部欧米言語文化学科 青地 伯水 教授

レーゲンスブルク研修期間のとある一夕、町はずれの映画館でフランス映画『ムッシュ・クロード』を見た。クロード氏には4人の娘がいるが、上からムスリム、中国人、ユダヤ人と結婚している。したがって家族そろってのクリスマスも宗教上の問題から盛り上がりがない。四女がカトリック教徒と結婚するという。だが氏の喜びもつかの間、会食の席にはアフリカの黒人があらわれる。驚愕、対立、和解とストーリーは進みハッピーエンド。

閑話休題、今年の研修には欧米言語文化10名、歴史4名、食保健1名、計15名の学生が参加した。インターナショナル・サマーコースには40か国からペルー、オーストラリアなど5大陸すべてにわたり160名の参加者があった。とくに最近はアフリカ大陸からの学生が増加傾向にあるそうだ。ドイツの経済的伸長と黒人差別のない歴史が魅力であるらしい。そんな雑多な人種のなか

で、本学の学生も、もまれて学ぶ。

研修初日には日本に関心があり、少し日本語を話せるドイツ人学生がチューターとして来てくれた。ある学生が、現在も残るドイツの城壁都市ネルトリンゲンの写真を見せると、即座に「シングルキノキヨジン」（マンガ『進撃の巨人』）といったそうだ。彼は日本に来たがっていた。今やドイツの若者の日本受容といえば、マンガとアニメである。前述の映画館では、ジブリの『風立ちぬ』もかかっていた。インターナショナルなこの研修を継続、発展させることは重要である。それにあわせて今後は、日本に興味のあるドイツ人学生を本学で受け入れる態勢を整えることが喫緊の課題であるように思えた。

平成26年度の
訪問の様子



受賞情報

**生命環境科学研究所 環境科学専攻 高原 光教授
日本第四紀学会「学術賞」受賞**

環境科学専攻の高原光教授が第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた学会正会員に授与される日本第四紀学会において 2014 年「学術賞」を受賞されました。

対象研究業績

「花粉分析に基づく後期更新世以降の東アジア植生史研究への貢献」

**生命環境科学研究所 横川 紀さん
学生森林技術研究論文コンテスト
「日本森林技術協会理事長賞」受賞**

環境科学専攻（森林資源循環学研究室）博士前期課程 1 回生（論文応募時：森林科学学科 4 回生）の横川紀さんが一般社団法人日本森林技術協会第 24 回学生森林技術研究論文コンテストにおいて「日本森林技術協会理事長賞」を受賞しました。

受賞論文

「各種イオン液体による木材の難燃化」

**生命環境科学研究所 畑澤 幸乃さん 俣野 明日香さん
日本農芸化学会関西支部例会
「若手優秀発表賞」「賛助企業特別賞」受賞**

応用生命科学専攻（分子栄養学研究室）特別研究学生の畠澤幸乃さんが日本農芸化学会第 48 回関西支部例会において「若手優秀発表賞」を、（微生物機能化学研究室）博士前期課程 1 回生の俣野明日香さんが「賛助企業特別賞」を受賞しました。

受賞演題

「転写共役因子 PGC1 α は骨格筋 BCAA 代謝を調節する」（畠澤）
「好熱性細菌 *Melothrix ruber* H328 株が産生するケラチン分解性プロテアーゼ巨大分子複合体に関する研究—複合体構成タンパク質の同定と局在性および膜小胞との関連—」（俣野）

**生命環境科学研究所 小玉 紗代さん
欧州菌類遺伝学会「優秀ポスター発表賞」受賞**

応用生命科学専攻（植物病理学研究室）博士課程後期課程 1 回生（受賞時：博士前期課程 2 回生）の小玉紗代さんが第 12 回欧州菌類遺伝学会「優秀ポスター発表賞」を受賞しました。

受賞項目

「*C. orbiculare* Copag1, a component of MOR pathway, is involved in appressorium development triggered by plant-derived signals」

**生命環境科学研究所 佐藤 茂教授
園芸学会「年間優秀論文賞」受賞**

応用生命科学専攻の佐藤茂教授が園芸学会の 2013 年「年間優秀論文賞」を受賞されました。

受賞論文

「Expression and Regulation of Senescence-related Genes in Carnation Flowers with Low Ethylene Production during Senescence」（棚瀬幸司・大津佐和子・佐藤・小野崎隆）

**生命環境科学研究所 古田 裕三准教授
日本建材・住宅設備産業協会「特別功績賞」受賞**

環境科学専攻の古田裕三准教授が日本建材・住宅設備産業協会平成 26 年度定時総会において、特別功績賞を受賞しました。

主な功績

WPRC 部会に関係する標準化について、長年にわたり JIS 原案作成委員会の委員長として主導的な役割を果たし、WPRC 部会のアドバイザーとして貢献。



受賞の様子

生命環境科学研究所・生命環境学部

大越 誠教授・古田 裕三准教授・宮藤 久士准教授・桐生 智明さん・宮内 康平さん・井手 友海さん・三好 由華さん・山本 実希さん・田井 駿一さん・源 康治さん

日本木材学会大会「優秀ポスター賞」受賞

生物材料物性学研究室及び森林資源循環学の学生・院生・教員が第 64 回日本木材学会大会にて、「優秀ポスター賞」を受賞しました。

受賞演題

「モウソウチクの成長に伴う内部応力の変化」（桐生・古田・大越）
「木材の横圧縮時における細胞の変形挙動～年輪内の細胞形状の違いに着目して～」（田井・宮内・井手・三好・古田・大越）
「ポリスチレンと木粉を原料とした混練型 WPC の基礎的研究 - 成形体の物性に及ぼす木粉配合率の影響 -」（山本・三好・古田・大越・閑雅子）
「PF6 系イオン液体処理木材の難燃性および耐蟻性」（源・宮藤）

生命環境科学研究所 小笠原 翔さん

日本ペトロジー学会「ポスター賞」受賞

応用生命科学専攻（土壤化学研究室）博士前期課程 1 回生の小笠原翔さんが日本ペトロジー学会 2014 年度大会で「ポスター賞」を受賞しました。

受賞の様子

受賞演題

「黒雲母からの K 放出に伴うフレイド・エッジ・サイトおよびバーミキュライト量の変化」

生命環境科学研究所 吉近 匠生さん

日本薬学会第 134 年会「講演ハイライト」選出

応用生命科学専攻（機能分子合成化学研究室）博士前期課程 1 回生の吉近匠生さんが日本薬学会第 134 年会で報道機関向け「講演ハイライト」に選ばれました。

選出演題

「ホモキラルオリゴナフタレンを柱としたらせん階段状化合物の合成」

生命環境科学研究所 木戸 康博教授

栄養関係厚生労働大臣表彰

応用生命科学専攻の木戸康博教授が、長年に渡る栄養士・管理栄養士養成への貢献と、栄養関連学会や栄養士会における積極的な活動を評価され、平成 26 年度栄養関係厚生労働大臣表彰を受けられました。

主な功績

栄養士養成功労者

生命環境科学研究所 広岡 佑太さん

日本進化学会大阪大会「最優秀ポスター賞」受賞

応用生命科学専攻（応用昆虫学専門種目）博士前期課程 2 回生の広岡佑太さんが日本進化学会第 16 回大阪大会において「最優秀ポスター賞」を受賞しました。

受賞項目

「セスジアメンボの翅型決定に関わるゲノム領域の推定に向けた試み」

話題の研究



新刊紹介『八幡菖蒲革と石清水神人』 菖蒲革で尚武して勝負に出るも！

文学部 歴史学科 竹中 友里代 特任講師

八幡菖蒲革は、鞣(なめ)した白革(鹿革)を濃い藍や五倍子に染め、花菖蒲や駒が駆ける図柄などを白抜きに型染めしたものです。白革は、しなやかで通気性があり、雨にぬれても硬くならない上質の皮革として武具や馬具に用いられ、菖蒲の音が尚武(武道・軍事を重んじる事)に通じ、戦神八幡神が鎮座する石清水の特産品として、武家には垂涎の品でした。

徳川家康の側室お亀(尾張藩祖徳川義直生母)のとりなしで、石清水八幡宮領が検地免除となり、その返礼として慶長16年(1611)家康に菖蒲革10枚が贈られました。以来毎年年頭御礼に将軍家に菖蒲革が献上されるようになりました。この献上品を一手に担ったのが、神宝所神人で、その配下の八幡科手郷白革師及び大坂白革師が材料の調進・制作を独占していました。

白革は、武具・火事装束だけでなく衣類や袋物などの一般品にも次第に需要が高まり、献上品以外の余剰品は、印判を押して流通が許されるようになりましたが、

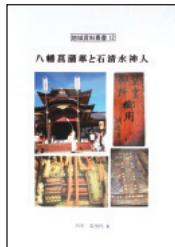
石清水の菖蒲革は、寺社奉行や懇意の武家に限り高額で譲られ、神宝所に莫大な利益をもたらしていました。

八幡で制作される菖蒲革は、穢多が扱う牛馬革とは異なり、清浄な白革だけを用い、製造販売の独占権をめぐつて、穢多村や新興皮革業者と度々争論を繰り返していました。争論の内容

は、京天部・六条村及び大坂白革師が作成した願書等は知られていましたが、本家の八幡側の主張が未刊行のため、奉行所の裁定とその根拠が長らく不分明でした。穢多身分との混迷を忌避する石清水神人の主張は、当地独自の身分構造によるものでした。

幕末、石清水では生き残りを賭けて、菖蒲革献上を政治的に活用しようと試みます。もっとも、浄・穢の分別は神威・武威を背景にした身分制の産物故に近代に急速に消滅するのですが。

本報告は、文科省研究助成「被差別民衆史・研究方法論」(研究代表者服部英雄氏)の成果です。本学古文書実習授業において、目録整理した資料をはじめ、新出史料を網羅しています。



ニューフェース

**公共政策学部 京都政策研究センター
准教授 菅木 智一(ひしき ともかず)**



〈主な研究領域〉大学と行政、地域との連携・協働についての実践研究、行政と地域の経営システムに関する研究
(研究室: 京都政策研究センター(京都府職員研修・研究支援センター1F) 内線5319)

京都府からの派遣教員として、5月から着任いたしました菅木と申します。大学と地域との連携・協働によるまちづくりや、行政への企業経営手法導入による住民満足の最大化について研究しています。

これまでの行政経験や企業経営への関わりを活かしながら、府大と府及び府内自治体を結びつける、「走りながら考える営業マン」として、将来公的分野での活躍を夢見ている学生さんも巻き込んで活動できればと考えています。よろしくお願いします。

退職教員からのメッセージ ❤️

生命環境科学研究科応用生命科学専攻 齋藤 学

大学院生の、まだ学生気分の抜けきらない時に府大に着任し、それから23年が経ちました。府大に着任した当初、こぢんまりとしているが、静かでとても縁の多いキャンパスに心地よさを感じたのを覚えています。勤め始めてから最初の7年間は教養教育の物理実験担当の教員でしたので、学生の卒業研究を指導する必要がありませんでした。今からすれば信じられないほどの有り余る時間を専門の原子物理の研究に費やすことができ、これが現在の研究の基盤を自分の中につくった大切な時間であったと思います。その後、環境情報学科という、当時としてはその名前と教育内容が全国的にも目新しい学科の新設を含め、

二度の学部・学科の改変を経験しました。特に環境情報学科の新設には、設立教員の一人であったこともあり、学科の教育・研究の方向性と内容を、ゼロから(いろいろな制約条件はありましたがあ…)議論して実現していくという貴重な体験をさせていただきました。

環境情報学科が開設して以降は教育・研究・運営とそれに時間を割いて、微力ではありますましたが私なりにフルパワーで突き進んできたように思います。忙しさの中であっという間に過ぎた23年間でしたが、大学教員としての素養を学ばせていただいた府立大学の皆様に感謝しています。

研究室にて学生と

イベント情報

平成26年度 桜楓講座(秋の部) 〈京都府公立大学法人連続講座〉

最近のトピックスを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野についてわかりやすく講義を行います。

Cコース 11月8日(土) 10:00～12:00

「遊び仕事という自然共生の姿から「サブシステム・自分の力で生きる」について再考する」

講師：生命環境科学研究科教授 三橋 俊雄

Dコース 11月22日(土) 10:00～12:00

「東寺百合文書にみる中世京都の人と暮らし」

講師：文学部准教授 横内 裕人

場 所 京都府立大学 大学会館2階 多目的ホール

受 講 料 無料

募集期間 10月31日(金)まで

申込・お問い合わせ先

〒606-8522 (住所記入不要)

京都府立大学企画課

TEL : 075-703-5147

FAX : 075-703-5149

E-mail : kikaku@kpu.ac.jp



ユネスコ世界記憶遺産候補 東寺百合文書連続講座 「世界のなかの東寺百合文書」

京都府立総合資料館では、京都府立大学との共催で、ユネスコ世界記憶遺産の候補として推薦されている東寺百合文書について、多くの方に興味を持ち親しんでいただくとともに知識を深めてもらえるよう、全4回の講座を開催します。



第1回(終了)

「世界に散らばる日本資料」

金田章裕氏(京都大学名誉教授・京都府特別参与)

第2回

「中世会計史と百合文書」

三光寺由実子氏(和歌山大学経済学部准教授)

10月26日(日)午後2時～4時、キャンパスプラザ京都 第2講義室

第3回

「戦国時代、ヨーロッパと出会った頃の百合文書」

天野忠幸氏(関西大学非常勤講師)

11月30日(日)午後2時～4時、キャンパスプラザ京都 第2講義室

第4回

「東寺の歴史と百合文書」

新見康子氏(東寺文化財保護課長)

12月14日(日)午後2時～4時、京都府立大学 合同講義室棟第3講義室

※4回とも横内裕氏(京都府立大学文学部准教授)が講演者との対談を行ないます。

定 員 各回200名 入場料無料

※事前申込み不要、定員を超えた場合、入場制限をさせていただきます。

お問い合わせ先

京都府立総合資料館 歴史資料課(075-723-4834)

～京都を「都市」と「農村」、「ロバス」の視点から探る～ 平成26年度 国際京都学シンポジウムを開催します

国際京都学シンポジウム 「都市と農村のロバスな関係」

日 時：平成26年11月3日(月・祝日) 13:15～17:15

場 所：京都府立大学「稻盛記念会館」104講義室

(京都市左京区下鴨半木町1-5)

内 容

【基調講演】

- 「開発のための多様性と多様性のための開発 文化、農業そして持続可能な開発のための革新」
パルビス・クーハフカン氏(総合地球環境学研究所客員研究員、前FAO土地・水資源部長)
- 「森の恵みによってもたらされるロバスな関係 ケベック州の事例」
ナンシー・ジェリナ氏(カナダ・ラヴァル大学教授)
- 「伝統と革新：食と農にみる京都ブランドの柔軟性」
グレッグ・デ・モーリス氏(米国・ピッツバーグ大学院生)



【報 告】

- 「イタリアに見る都市と農村のロバスな関係」
宗田 好史氏(京都府立大学生命環境科学研究科 教授)
- 「グリーン・ツーリズムとエコツーリズム」
宮崎 猛氏(京都府立大学生命環境科学研究科 教授)
- 「ジビエを食べて考える森と私たちの関わり」
平山 貴美子氏(京都府立大学生命環境科学研究科 講師)

【パネルディスカッション】

- テーマ「都市と農村の望ましい関係とは」

定 員 150名(先着順)

参加費 無料

申込・お問い合わせ先

〒606-8522 (住所記入不要) 京都府立大学企画課

TEL : 075-703-5147 FAX : 075-703-5149

E-mail : kikaku@kpu.ac.jp